

Level	Can-Do descriptor	評点			タスク共通のレベルイメージ (評点 2の場合)
		3	2	1	
		タスクが難なく十分に達成できた	タスクが達成できた	タスクが達成できなかった	
PreA1.1 (help)	基本的な語句を使って、「助けて!」や「～が欲しい!」などの自分の要求を伝えることができる。また、必要があれば、欲しいものを指さしながら自分の意思を伝えることができる。	「言いたいこと」を4つ全部言え、そのうち文が混じっており、ためらいなく言える(通じる程度のエラーは許容)。	単語レベルで、「言いたいこと」のうち3つ以上言える(例: Help, Hungry, Food. で評点 2)。	「言いたいこと」4つのうち2つ以下しか言えない。	単語レベル、もしくは決まり文句(formulaic expressions)として丸暗記しているものなら言える。
PreA1.2 (hello)	一般的な定型の日常の挨拶や季節の挨拶をしたり、そうした挨拶に回答したりすることができる。	定型の挨拶以上のことを言う、または聞くことが1回でもある(I'm going to school. What are you doing here?など)。その発話はスムーズである必要はないが、長い沈黙はない。	単語レベルで、定型の挨拶が2つ以上言える(Hello, How are you? I'm fineなど)。試験官(留学生)の言った挨拶のリピートでも、1つとカウントする(Good morning, Good morning, など)	定型の挨拶が1つ以下しか言えない。	
A1.1.1 (Usamon)	なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。	質問は、文の形である以上言える(通じる程度のエラーは許容)。カードに書いてある以上の情報を、質問の答えとして言える。ためらいなく自然に文を言える。	試験官(留学生)の質問には、カードに書いてある通りに答える。質問は、What time? Where? など、疑問詞だけで聞く。単語レベルで、6つの情報のうち4つ以上聞いたり話したりできる。	単語レベルで、6つの情報のうち3つ以下しか言えない。時間と場所で尋ねられないものがある。	決まり文句ではない文は作れないレベル。
A1.1.2 (hobby)	家族、日課、趣味などの個人的なトピックについて、(必ずしも正確ではないが)なじみのある表現や基礎的な文を使って、質問したり、質問に答えたりすることができる。	What's your hobby? My hobby is … といった試験官が言った文のリサイクルではない文や、決まり文句ではない文が自然に作れ、試験官(留学生)の質問に答えることができる(通じる程度のエラーは許容)。	試験官(留学生)の質問に、単語、フレーズレベルで最低限の情報ではあるが、自然なタイミングで回答し、会話することができる。6つの質問のうち4つ以上に答えられる。	6つの質問に3つ以下しか答えることができない。もしくは、試験官(留学生)が1分半の間に6つの質問ができないほど、受験者の流暢さが低い。	
A1.2.1 (sports, hobby)	基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)において単純に回答することができる。	受け答えの速さ、タイミングが自然であることに加え、基本的に常にS+V(+O)の文で答え、聞かれている以上の情報を自主的に話すことができ、いつも受け身の会話ではない。	Yes, I can/No, I can'tなどの簡単な答えは、ためらうことなく自然なタイミングで返すことができる。それに加え、一度でも決まり文句ではない文を、S+V(+O)の形でその場で作ることができる(通じる程度のエラーは許容)。4つの質問のうち3つ以上に答えられる(What's your name?の答えは数に入れない)。	Yes, I can/No, I can'tといった決まり文句でも、返答するのに不自然な間があったり、ためらいがある。決まり文句を除き、文は1つも作ることができない。S+V(+O)の形でも、理解を妨げる大きな間違いがあったり、長い沈黙があったりする。4つの質問に2つ以下しか答えることができない。もしくは、試験官(留学生)が1分半の間に4つの質問ができないほど、受験者の流暢さが低い。	100%受け身で会話は進む。決まり文句ではない文を、最低一度は自ら作る。
A1.2.2 (food)	スポーツや食べ物などの好き嫌いなどのとてもなじみのあるトピックに関して、はっきり話されれば、限られたレパートリーを使って、簡単な意見交換をすることができる。	受け答えの速さ、タイミングが自然であることに加え、基本的に常にS+V(+O)の文で答え、聞かれている以上の情報を自主的に話すことができ、いつも受け身の会話ではない。	Yes, I do/No, I don'tなどの簡単な答えや、I (don't) like [食べ物の種類]などの決まり文句は、ためらうことなく自然なタイミングで返すことができる。90秒の間に準備する料理が3品以上決めることができる流暢さがある。	Yes, I do/No, I don'tなどの簡単な答えや、I (don't) like [食べ物の種類]などの決まり文句も、返答するのに不自然な間があったり、ためらいがある。決まり文句を除き、文は1つも作ることができない。S+V(+O)の形でも、理解を妨げる大きな間違いがあったり、長い沈黙がある。90秒の間に準備する料理が2品以下しか決めることができない。	
A1.3.1 (club)	趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきり話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。	自分のクラブ活動について、聞かれた以上の情報を自ら与えることができる。その上で、試験官(留学生)にはどのようなクラブ活動が良いか、情報を詳細に聞き出すことができる。	返答は基本的には短い、決まり文句以外の文が混ざり(通じる程度のエラーは許容)、受け答えのタイミングに不自然さはない。自分の部活についての十分な情報提供がある。S+Vがある形で質問をして、試験官(留学生)がどういったことができるのか、何が好きなのかを聞き出すことができる。生徒は質問を1つ行うことができる。	文が言えたとしても、決まり文句だったり、発話に時間がかかったりする。情報量が不十分で、部活を決める参考にはあまりならない。生徒は質問を1つも行うことができない。質問したとしても、今までの生活に基づいた質問ではなく、決まり文句的な質問、もしくは質問をするのに非常に時間がかかる。	文とフレーズが五分五分のイメージ(通じる程度のエラーは許容)。A1.3は質問することができるが、会話の主導権は、試験官にある。
A1.3.2 (movie)	基本的な語や言い回しを使って、人を映画などに誘ったり、誘いを受けたり、断ったりすることができる。	受け答えが非常にスムーズで、語用論的に適切な断り方ができる。また試験官(留学生)が代案を言うのを待たずに、自分から提案し、付加的な情報(例: 駅に大きな映画がある)を自主的に提供することができる。	試験官(留学生)の問いかけには自然なタイミングと速さで答える。断る時には「No Saturday」のような単語の羅列ではなく、文に近い形(I study Saturday. Action movies. I don't like)で答える。会話の主導権は試験官にあり、90秒で、4つ以上の必要事項を決めることができる程度の流暢さがある。	文が言えたとしても、決まり文句だったり、発話に時間がかかったりする。全体を通して単語、フレーズで答え、文が作れない。もしくは、流暢性が悪く、90秒で4つの必要事項を決めることができない。	
A2.1.1 (map)	順序を表す表現であるfirst, then, nextなどのつなぎ言葉や「右に曲がって」「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。	2分以内に、3か所の道案内が、スムーズに動詞のある形でできる。もしくは、2か所のスムーズな道案内に加え、付加的な情報(例: ラメー屋と寿司屋のお店情報)を自主的に提供することができる。	3か所のうち、2か所以上の道案内が、動詞のある形で説明できる。その説明は地図がないと理解できない程度のサンプルのものでよい。自然な流暢さで、言い直しも気にならない。(なお、若干の言い間違いや省略は減点しない(left and rightの言い間違いなど))。	3か所のうち、2か所以上の道案内が言葉では説明できず、地図上で場所を指す、または説明に動詞がない(Here, Left, など)。	エラーはあっても、基本的に文で話す。案に言える文は単文。複文を作ろうとすると、流暢さが落ちる。ポスターや絵の実物がないと、タスクの達成は難しい。
A2.1.2 (poster)	補助となる絵やものを用いて、基本的な情報を伝え、また、簡単な意見交換をすることができる。	ポスターの描写とポスターに関する自分の意見には裏付けなど付加的な情報がある。試験官(先生)のネガティブなコメントには語用論的に適切な方法で、代案を出す、アドバイスを求める等、余裕をもって対応できる。	ポスターの簡単な説明と自分の意見を、単文、もしくは単文をつなげたもの(重文)で、自然な流暢さで伝えることができる。試験官(先生)のネガティブなコメントに、簡単な文で何らかの対応ができる。最低でも、「①ポスターの描写」と「③試験官との意見交換」はできる。「②特に良い点」については、明確に触れなくてもいいが、試験官が質問をして引き出せばできる。	流暢さが悪く、ポスターの説明や自分の意見に関する情報量が不十分。準備した以外のことを言うのに、苦勞している。文になっていない、もしくは理解を妨げる重大なエラーがある。	
A2.2.1 (Kyoto)	簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。	文章をつなげたり、複文を使ったりして、自分のまとまった詳細な意見を言い、試験官(教員)の反対意見に対しても、語用論的に適切な方法で、自分の立場を主張できる。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、一貫して見られる。	①行先と②その場所の良さを、主語・動詞のある単文3文程度で簡単に言い、試験官(教員)の軽い反対意見に沈黙しない、簡単な文で何か反応できる。	①行先と②その場所の良さを言っているが、伝わらないことがある、流暢さが悪い、情報量が少ない、単語・フレーズレベルで話すなどタスクを達成するのを妨げる特徴が最低1つは見られる。意見が非常に単純で、試験官(教員)の軽い反対意見にもどう対応していいかわからず黙ってしまうことがある。	エラーはあっても、頻繁ではない、基本的に文で話す。案に言える文は単文。複文を作ろうとすると、流暢さが落ちる。
A2.2.2 (souvenir)	予測できる日常的な状況(郵便局・駅・店など)ならば、さまざまな語や表現を用いてやり取りができる。	欲しいお土産や状況の説明が詳細だったり、必要以上のこと(直切る、非常に具体的に欲しいものを描写するなど)を自然に自分から言っていたりする。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、一貫して見られる。	①行先と②その場所の良さを、主語・動詞のある単文3文程度で簡単に描写し、試験官(店員)とやり取りして欲しいものを2分以内に購入できる。	質問に対して最低限の情報量で答え、自分からどんなものが欲しいかなどを具体的に描写できない、欲しいお土産や状況を説明しているが、伝わらないことがある、流暢さが悪い、情報量が少ない、単語・フレーズレベルで話すなどタスクを達成するのを妨げる特徴が最低1つは見られる。	

B1.1.1 (school)	身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。	詳細が十分あり、しかも流暢さが自然である。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、一貫して見られる。	特徴や魅力の2点を、理解可能な4文以上の文で2分以内に説明できる。	学校の特徴や良い点などを話す1つ以下しか話すことができない。詳細もほとんどなく、流暢さにも欠けている。	簡単な複文 (when, because, if, 目的語のthat節など) は自然に使える。どんな話題でも、対応に困って長く黙りこんでしまうことなく、なんとか言葉をつないで会話を続けることができる。
B1.1.2 (culture)	個人的に関心のある具体的なトピックについて、簡単な英語を多様に用いて、社交的な会話を続けることができる。	詳細が十分あり、しかも流暢さが自然である。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、一貫して見られる。	日本文化と相手国の文化の2点について、理解可能な4文以上の文で2分以内に説明・質問できる。	日本文化と相手国の文化の2点について、1つ以下しか話すことができない。詳細もほとんどなく、流暢さにも欠けている。	
B1.2.1 (stolen bag)	病院や市役所といった場所において、詳細にまた自信を持って、問題を説明することができる。関連する詳細な情報を提供して、その結果として正しい処置を受けることができる。	カバンの外見、中身、状況に加え、試験官(警官)の非協力的な複数の質問や発言(誰も見なかったのか、店員と話したか、現金はどうしようもないよ)にも動じず、冷静に自信を持って答え、盗難証明書を丁寧に依頼できる。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、一貫して見られる。	カバンの外見、中身、盗難の状況をわかるように十分に説明し、盗難証明書を欲しい、と自然な流れで丁寧に言える。	盗難証明書が欲しいと言えなかった、言っても十分な状況説明がなく唐突だったなど、説明が不十分である。	・簡単な複文 (when, because, if, 目的語のthat節など) は自然に使える。身近な状況での文法や語彙の正確さは高く、余裕をもって話すことができる。 ・日常的に訪れる場所で、具体的な問題に対する対応ができる。 ・抽象的な議論はまだ十分にはできない。
B1.2.2 (dis-count)	駅や店などの一般的な場所で、間違った切符の購入などといったサービスに関する誤りなどの問題を、自信を持って詳しく説明することができる。相手が協力的であれば、丁寧に依頼したり、お礼を言って、正しいものやサービスを受けることができる。	説明が過不足なく効率が良い、依頼が丁寧に、感謝の言葉も忘れていない上に、試験官(店員)が一度できない、と言ったことに何とかしてほしいと更に失礼にならないよう再交渉できる。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、一貫して見られる。	2点以上買ったら30%OFFになるのに、なっていない、という状況をわかるように説明し、その流れで丁寧に依頼ができる。(なお、Could you please ~? を使ったから丁寧に依頼だと判断することはしない。)	試験官(店員)の手助けがないと状況がわかるように説明できない。説明が不十分か流暢さが低い。依頼が丁寧に行えない。	
B2.1.1 (child education)	ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで読んだり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。	詳細が十分あり、しかも流暢さが自然である。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、入れ子構造の複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、案に一貫して見られる。	子どもの貧困に対する対策について、納得いく複数の意見を述べ、詳細または理由を説明できる。3分で、対策について説明し、議論できる。	対策の説明や議論が、十分説明できない。または流暢さが低いいため時間内に終わらない。	・単純な複文だけでなく、節が複数入る入れ子構造などの多様な文型を自由に使える。 ・馴染みのあるトピックなら、自分の生活に直接関わりがないことでも安定したスピードでポーズや誤りがほとんどない状態で話すことができる。
B2.1.2 (studying abroad)	母語話者同士の議論に加われないこともあるが、自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論できる。	3分で、3つの問いに対して説得力ある理由を挙げながら考えを説明できる。詳細が十分あり、しかも流暢さが自然である。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、案に一貫して見られる。	留学に反対する人への反論を、納得いく形で行える。納得いく複数の反論を述べ、具体性は欠けるもののその理由を説明できる。	それぞれの問いに対して十分な説明ができない。または説明しようとしても理解するのが難しい。	・ネイティブ同士の議論に口を挟めるほどの流暢さはない。同じような内容を繰り返して、話し方の効率が悪い時もある。
B2.2.1 (soba)	一般的な分野から、文化、学術などの、専門的な分野まで、幅広いトピックの会話を積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。	説明を丁寧にしている。自分の経験など付加的な説明(例:音を立てて食べるのは、すぐにはできない)が自然に効果的に付け加えられる。詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、入れ子構造の複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、案に一貫して見られる。	質問に答えていて、常識的に考えて筋が通っていて十分な量があり、流暢さがある。なお、文化の解釈に関してはあまり正確さは問わない。	説明が不十分で、詳細を聞かれると「わからない」と答える。関連事項を試験官(外国人)が質問しても不十分な説明しかできない。	・単純な複文だけでなく、節が複数入る入れ子構造などの多様な文型を自由に使える。 ・幅広いトピックにおいて、複文でも高い流暢さを保ちながらポーズや誤りがめったにない状態で話すことができる。
B2.2.2 (AI)	幅広い慣用表現を使って、雑誌記事に対して意見を交換することができる。	資料をまとめるだけでなく、記事に対する自分の意見を十分に述べられる。試験官(記者)の質問にも的を射た答えをしており、かつ流暢に話せる。また、詳細さや流暢さ、正確さが高かったり、複文等の複雑な文構造やつなぎ言葉が多く見られたり、会話をリードしたり等のプラスの要素が2つ以上、案に一貫して見られる。	記事に対する自分の意見を述べ、試験官(記者)の質問にも的を射た答えができる。ロジックが飛躍したり、具体性に欠けたりするなど問題が最初見られても、後の説明で補える。	記事の一部を読み上げたり、まとめたただけだったり、自分の意見が不十分だったりする。ロジックが飛躍したり、具体性に欠けたりするなど問題が見られ、後で訂正もしていない。記事の内容もわかっていない。	・ネイティブ同士の議論に口を挟めるほどの流暢さはない。同じような内容を繰り返して、話し方の効率が悪い時もある。
C1	言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。社会上、仕事上の目的に合った言葉遣いが、意のままに効果的にできる。自分の考えや意見を正確に表現でき、自分の発言を他の話し手の発言にうまくあわせることができる。		(GEFR-Jタスクはなし)		
C2	いかなる会話や議論でも無理なくこなすことができ、慣用表現、口語体表現をよく知っている。自分を流暢に表現し、細かい意味のニュアンスを正確に伝えることができる。表現上の困難に出会っても、周りの人に気づかれないように修正し、うまく繕うことができる。		(GEFR-Jタスクはなし)		

※数値目標等は原則である。

※数え方について、不自然で長いポーズがあるなど、流暢さが極端に悪いものは数えない。